

## 長崎史談会 27年秋の研修旅行記(1)

幹事 吉野誠次

## [1日目]

平成27年9月2日(水)男性10名・女性14名からなる史談会の旅行団一行は、神戸空港に到着し、東豊観光バスの45人乗りの大型バスにゆっくりと乗込み、最初の見学地である姫路城に向かう。

姫路城は、池田輝政が慶長14年(1609)にほぼ現在の規模に拡張した。明治の大修理(明治43年)、昭和の大修理(昭和30年、昭和39年)を経て、平成の大修理が行われた(平成21年6月～平成27年3月)。

次の見学地松江市までは、中国自動車道等を3時間半程走り、松江城に着く。松江城は今年(平成27年)の7月に国宝に昇格したばかりで、全体的に活気に満ちていた。また、説明してくれたガイドの方(女性)も知識豊富で、丁寧であり、よく理解できた。

次に訪れた神魂(かもす)神社は、日本最古の建築様式・天地根元造の形態を有する大社造りとして、出雲大社より古い建物で、国宝に指定されている。ガイドの方もこの神社を選んで貰った事を大変喜んでおられた。



最近大改修を終えた姫路城

改修が終わったばかりの世界遺産で国宝の姫路城は、白鷺城というより「白過ぎ城」がぴったりの白さであった。城内には入らなかったが、敷地が広く外を見て回るだけで、万歩計の歩数も結構アップしていた。



平成27年国宝に指定された松江城



日本最古の建築様式・天地根元造の神魂神社



小泉八雲ゆかりの地- 14

## 神魂神社

出雲国造の祖、天穗日命が降臨し創建したと伝えられる神社である。現在の本殿は正平元年(1346年)の再建とされ、柱からは墨書もみつまっている。

現存する最古の大社造で、国宝に指定されている。

小泉八雲は明治24年4月5日に西田千太郎とともにここを訪れている。村築の国造火織を授ける習慣や天穂日命が降臨時に使用したという鉄の大釜、伊弉諾・伊弉冊の禊鳥とされるセキレイの伝承について記している。



『知られぬ日本の面影』 第14章「八重垣神社」より